

安岡治子先生  
業績一覧  
(2021年3月現在)

著書(単著)

- 『総合ロシア語入門』, 研究社, 2011年3月, 297頁.

著書(共著)

- 『ロシア文学案内』, (藤沼貴, 小野理子と共著), 岩波書店, 2000年4月, 394頁, 第5章「二十世紀」を執筆, pp. 289-394.
- 『基礎から学ぶロシア語発音』, (リュボーフイ・ゴルボフスカヤと共著), 研究社, 2016年6月, XII+127頁.

著書(分担執筆)

- 『ロシア・東欧——文明の回廊』, 聖心女子大学キリスト教文化研究所編, 春秋社, 1994年3月, 225頁, 「現代ロシア・ナショナル派——二十一世紀ロシアへの模索」を執筆, pp. 233-251.
- 『岩波講座 文学8 超越性の文学』, 小森陽一, 富山太佳夫, 沼野充義, 兵藤裕巳, 松浦寿輝編, 岩波書店, 2003年8月, 280頁, 「ドストエフスキーのキリスト教——『カラマーゾフの兄弟』を中心に」を執筆, pp. 183-204.
- 『はじめて学ぶロシア文学史』, 藤沼貴, 水野忠夫, 井桁貞義編著, ミネルヴァ書房, 2003年9月, 492頁, V部概説, 第16章, 17章, 18章を執筆, pp. 400-454.
- 『21世紀ドストエフスキーがやってくる』, 集英社, 2007年6月, 357頁, 「ドストエフスキーと正教」を執筆, pp. 255-264.
- 『ユーラシア世界①〈東〉と〈西〉』, 塩川伸明, 小松久男, 沼野充義, 宇山智彦編, 東京大学出版会, 2012年5月, 244頁, 「ロシア文学における東と西」を執筆, pp. 19-50.
- 『井上洋治著作選集・7』, 山根道公編, 日本キリスト教団出版局, 2017年2月, 264頁, 「井上洋治神父と東西キリスト教」を執筆, pp. 243-247.
- 『反米——共生の代償か, 闘争の胎動か』 遠藤泰生編, 東京大学出版会, 2021年3月, 336頁, 「ロシアの『反米』——独自の道を求めて」を執筆, pp. 229-262.

論文

- 「ゾーシチェンコの『感傷的中編』」, 『ロシア手帖』16号, ロシア手帖の会, 1983年5月, pp. 35-39.
- 「ゾーシチェンコに見る сказ の信号」, 『Rusistika 東京大学文学部露文研究室年報』3号, 1983年7月, pp. 62-67.

- 「ミハイル・ゾーシチェンコの『日の出前』」、『ロシア語ロシア文学研究』17号、日本ロシア文学会、1985年9月、pp. 1-16.
- “Несколько слов о повести М.М.Зощенко «Перед восходом солнца»”, Japanese Slavic and East European Studies Vol. 7, The Japanese Society for Slavic and East European Studies, 1986 July, pp. 31-49.
- 「ワレンチン・ラスプーチンの《Последний срок》」、『ロシア語ロシア文学研究』19号、日本ロシア文学会、1987年10月、pp. 101-114.
- 「『生きよそして記憶せよ』のフォークロアの宗教的ポドテキスト」、『Rusistika 東京大学文学部露文研究室年報』4号、1987年10月、pp. 108-114.
- 「『マチョーラとの別れ』の結末について」、『ロシア手帖』26号、ロシア手帖の会、1988年6月、pp. 50-54.
- 「ラスプーチンの世界——精神の恢復を求めて」、『新日本文学』496号、新日本文学会、1989年7月、pp. 64-69.
- 「ゾーシチェンコの晩年」、『ロシア手帖』31号、ロシア手帖の会、1990年12月、pp. 57-62.
- 「『道標』とロシアの現在」、『表象 ルプレザンタシオン』第4号、筑摩書房、1992年10月、pp. 114-118.
- 「フョードロフの復活」、『文芸』第32巻第2号、河出書房新社、1993年5月、pp. 303-306.
- 「ユーラシア主義のユートピア」、『20世紀ロシア・ソビエト文学におけるユートピアとアンチ・ユートピア』、平成4、5年度科学研究費補助金による研究報告書、1994年3月、pp. 57-68.
- 「瘋癲行者が語る黙示録——『モスクワペトウシキ』をめぐる」、『Odysseus 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要』第1号、1997年3月、pp. 47-59.
- 「フョードロフの教義の宗教的特質」、『現代ロシア文化における民族主義』、平成7、8年度科学研究費補助金による研究報告書、1998年3月、pp. 78-93.
- 「ユーラシア主義の誘惑——ロシア正教との結びつきを中心に」、『ヨーロッパ研究特別号 ヨーロッパとアジアの間』、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 ドイツ・ヨーロッパ研究室、2005年3月、pp. 1-15.
- 「シンフォニック・リーチノスチーユーラシア主義に見られる全一的理想社会の探求」、『ロシア・東欧学会年報』第34号、2006年3月、pp. 26-36.
- 「ゾシマ長老と東方キリスト教」、『アイコン——東方キリスト教研究』33号、東方キリスト教会、2006年7月、pp. 29-50.
- 「『教会』をめざす国家：ユーラシア主義のユートピア」、『アブラハムの伝統の臨界——三大一神教の哲学、神学・政治論とその外部の地域文化研究』科学研究費成果報告書、2009年3月、pp. 142-156.
- 「井上洋治神父と東方キリスト教の重なり」、『 pneuma 風』、第100号、風編集室、2016年5月、pp. 23-28.
- 「ドストエフスキーのキリスト教と井上神父」、『 pneuma 風』、第104号、風編集室、2018年

5月, pp. 17-36.

- ・「ドストエフスキーとリーチノスチ」, 『すばる』, 40-8号, 集英社, 2018年8月, pp. 106-113.

#### エッセイ・解説(単行本翻訳の解説を除く)・記事など

- ・「訪ソ印象記」, 『ソ連出版文化通信』, 日ソ著作権センター, 1980年12月, pp. 2-7.
- ・「樹の声、水のを聴く作家」, 『高知新聞』, 1986年8月12日.
- ・「ラスプーチンの裂けたズボン」, 『学燈』, 1986年12月, pp. 28-32.
- ・「水を清めることは魂の浄化に——日ソ文学者環境会議「琵琶湖フォーラム」にて」, 『読売新聞』, 1989年11月9日.
- ・「アンドレイ・プラトーフ」, 『ギャラリー世界の文学』第15巻, 集英社, 1990年10月, pp. 1191-1201.
- ・「時に沿って ロシアの魅力」, 『教養学部報』第365号, 1992年4月8日.
- ・「ヴェネディクト・エロフェーエフ『酔どれ列車、モスクワ発ペトウシキ行』」, 『ユリイカ』第29巻第5号, 青土社, 1997年4月, pp. 190-191.
- ・「酒と愚者の魂」, 季刊『文学』増刊「酒と日本文化」, 岩波書店, 1997年11月, pp. 98-99.
- ・「ゴンチャロフ、怠惰の哲学」, 『週刊朝日百科・世界の文学』ヨーロッパIII-15号. 朝日新聞社, 1999年10月24日, pp. 3-154-3-156.
- ・「ゾーシチェンコ、ユーモア作家の憂鬱」, 『週刊朝日百科・世界の文学』ヨーロッパV-71号, 朝日新聞社, 2000年11月26日, pp. 5-018-5-020.
- ・「プラトーフ、共産主義の裏切り」, 『週刊朝日百科・世界の文学』ヨーロッパV-72号, 朝日新聞社, 2000年12月3日, pp. 5-040-5-042.
- ・「アルセニエフのことなど」, 黒澤明監督作品『デルス・ウザーラ』DVD解説書, 日本ヘラルド映画株式会社, 2002年10月, pp. 17-20.
- ・「原卓也先生の思い出」, 『東京外語ロシア会会報』復刊9号, 2006年10月, pp. 4-5.
- ・「選評」, 『第16回野間文芸賞翻訳賞』, 2007年9月, p. 8.
- ・「世界文学の歩き方、翻訳と私」, 『本が好き!』Vol. 17, 光文社, 2007年11月, pp. 66-67.
- ・「デタラメ! Грубая ошибка!」, 『上智大学外国語学部ロシア語学科50周年記念誌』, 2007年12月, p. 108.
- ・「この人・この3冊 ヴォルインスキー」, 『毎日新聞』, 2007年12月16日.
- ・「柴先生に贈る言葉」, 『Odysseus 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要』, 第14号, 2010年3月, pp. 61-62.
- ・「中井和夫先生を送る言葉」, 『Odysseus 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要』第17号, 2013年3月, pp. 91-93.
- ・「父の思い出」, 『文芸春秋』5月号, 文芸春秋社, 2013年5月, pp. 79-81.
- ・「不思議なご縁——阿川弘之『鮎そのほか』」, 『波』5月号, 新潮社, 2013年5月, pp. 6-7.

- 「あとがきに代えて」、安岡章太郎著『文士の友情』、新潮社、2013年7月、pp. 278–285.
- 「父と珈琲と美人ナースについて」、『作家の珈琲』、平凡社、2015年6月、pp. 12–13.
- 「人生と旅 プロセスを愉しんだ父」、『読売新聞』、2016年10月10日.
- 「安岡章太郎展によせて」、『藤並の森 高知県立文学館』Vol. 84、2019年3月8日、p. 1.
- 「教えられ導かれて二十九年」、『教養学部報』第625号、2021年2月1日.

## 翻訳

### 単独訳（単行本）

- ワレンチン・ラスプーチン『マリヤのための金』、群像社、1984年7月、438頁。（翻訳、解説）
- ワレンチン・ラスプーチン『マチョーラとの別れ』、群像社、1994年3月、301頁。（翻訳、解説）
- ヴェネディクト・エロフェーエフ『酔どれ列車、モスクワ発ペトウシキ行』、国書刊行会、1996年11月、250頁。（翻訳、解説）
- ヴラジミール・アルセニエフ『デルス・ウザラ』、小学館、2001年11月、265頁。（翻訳）
- フョードル・ドストエフスキー『地下室の手記』、光文社古典新訳文庫、2007年5月、285頁。（翻訳、解説、年譜、訳者あとがき）
- フョードル・ドストエフスキー『貧しき人々』、光文社古典新訳文庫、2010年4月、334頁。（翻訳、解説、年譜、訳者まえがき、あとがき）
- フョードル・ドストエフスキー『白夜/おかしな人間の夢』、光文社古典新訳文庫、2015年4月、249頁。（翻訳、解説、年譜、訳者あとがき）

### 共訳（単行本）

- ワレンチン・ラスプーチン『生きよ、そして記憶せよ』、原卓也と共訳、講談社、1980年11月、326頁。（全体を翻訳、原卓也が加筆）
- スヴェトラナ・セミョーノヴァ『フョードロフ伝』、亀山郁夫と共訳、水声社、1998年6月、355頁。（pp. 149–290の翻訳、及び解説 pp. 339–355）
- ファジリ・イスカデル『チェゲムのサンドロおじさん』、浦雅春と共訳、国書刊行会、2002年1月、427頁。（pp. 75–152、pp. 249–303を翻訳）

### 短編、論文などの翻訳（単行本、雑誌）

- ワレンチン・ラスプーチン「人類は偶然のものにあらず」、『ソヴィエト文学』第85号、群像社、1983年9月、pp. 184–189.
- ミハイル・ゾーシチェンコ「貴婦人」、『ソヴィエト文学』第89号、群像社、1984年9月、pp. 138–141.
- ワレンチン・ラスプーチン「シベリア開発の光と影」、『ソ連出版文化通信』、日ソ著作権セン

ター, 1986年7月, pp. 8-12.

- アンドレイ・プラトーフ「疑惑を抱いたマカール」, 『ギャラリー世界の文学』第15巻, 集英社, 1990年10月, pp. 1027-1045.
- ヴェネディクト・エロフエーエフ「モスクワからベトゥシキへ」(抄訳), 『現代詩手帖』第34巻第5号, 思潮社, 1991年5月, pp. 44-55.
- ニコライ・フォードロフ「共同事業の哲学」(抄訳), 『文芸』第32巻第2号, 河出書房新社, 1993年5月, pp. 298-303.
- オレーグ・エルマコフ「幼な子 vs センナヘリブ王」, 『文芸』第34巻第2号, 河出書房新社, 1995年5月, pp. 297-300.
- ジャック・ロッシ『ラーゲリ強制収容所註解事典』, 恵雅堂出版, 1996年10月, 281頁を染谷茂ほか十人と共訳.
- ファジリ・イスカンデル「困難な自由を」(翻訳, 聞き手, 構成), 『現代思想』, 青土社, 1997年4月, pp. 196-204.
- アナスターシヤ・ガーチェワ「ドストエフスキーとフォードロフ」(翻訳, 解説), 『現代思想』第38巻4号, 青土社, 2010年4月, pp. 148-159.

#### 教科書

- 『ロシア語 I——文法・表現の基礎——』, 川端香男里と共著, 放送大学教育振興会, 1989年4月, 158頁. 全体を執筆. (川端香男里が加筆)
- 「入門篇テキスト」, 『NHK ラジオロシア語講座』, 日本放送出版協会, 1994年4月, 74頁, pp. 7-46.
- 「入門篇テキスト」, 『NHK ラジオロシア語講座』, 日本放送出版協会, 1994年5月, 75頁, pp. 3-50.
- 「入門篇テキスト」, 『NHK ラジオロシア語講座』, 日本放送出版協会, 1994年6月, 69頁, pp. 3-42.
- 「入門篇テキスト」, 『NHK ラジオロシア語講座』, 日本放送出版協会, 1994年7月, 71頁, pp. 3-42.
- 「入門篇テキスト」, 『NHK ラジオロシア語講座』, 日本放送出版協会, 1994年8月, 75頁, pp. 3-50.
- 「入門篇テキスト」, 『NHK ラジオロシア語講座』, 日本放送出版協会, 1994年9月, 73頁, pp. 3-42.
- 『ロシア語入門 I ('05)』, (西中村浩との共著), 放送大学教育振興会, 2005年3月, 222頁, pp. 1-157, pp. 202-221 を執筆.
- 『ロシア語入門 II ('05)』, (西中村浩との共著), 放送大学教育振興会, 2005年3月, 257頁, pp. 196-238, pp. 255-266 を執筆.

- 「入門篇 13 番館へようこそ」, 『NHK ラジオロシア語講座』, 日本放送出版協会, 2005 年 4 月, 120 頁, pp. 6-61.
- 「入門篇 13 番館へようこそ」, 『NHK ラジオロシア語講座』, 日本放送出版協会, 2005 年 5 月, 120 頁, pp. 10-63.
- 「入門篇 13 番館へようこそ」, 『NHK ラジオロシア語講座』, 日本放送出版協会, 2005 年 6 月, 121 頁, pp. 10-55.
- 「入門篇 13 番館へようこそ」, 『NHK ラジオロシア語講座』, 日本放送出版協会, 2005 年 7 月, 115 頁, pp. 10-55.
- 「入門篇 13 番館へようこそ」, 『NHK ラジオロシア語講座』, 日本放送出版協会, 2005 年 8 月, 112 頁, pp. 10-63.
- 「入門篇 13 番館へようこそ」, 『NHK ラジオロシア語講座』, 日本放送出版協会, 2005 年 9 月, pp. 120 頁, pp. 10-55.
- 「ロシア文学からの贈り物 ドストエフスキー 『カラマーゾフの兄弟』」, 『NHK テキストまいにちロシア語 10』, 137 頁, NHK 出版, 2017 年 9 月, pp. 77-112.
- 「ロシア文学からの贈り物 チューホフ 『ふさぎの虫』」, 『NHK テキストまいにちロシア語 11』, 140 頁, NHK 出版, 2017 年 10 月, pp. 77-115.
- 「ロシア文学からの贈り物 ブルガーコフ 『巨匠とマルガリータ』」, 『NHK テキストまいにちロシア語 12』, 143 頁, NHK 出版, 2017 年 11 月, pp. 79-117.
- 「ロシア文学からの贈り物 プラトノフ 『牝牛』」, 『NHK テキストまいにちロシア語 1』, 137 頁, NHK 出版, 2017 年 12 月, pp. 81-127.
- 「ロシア文学からの贈り物 ラスプーチン 『フランス語の授業』」, 『NHK テキストまいにちロシア語 2』, 154 頁, NHK 出版, 2018 年 1 月, pp. 83-125.
- 「ロシア文学からの贈り物 イスカンデル 『大きな家の大いなる一日』」, 『NHK テキストまいにちロシア語 3』, 148 頁, NHK 出版, 2018 年 2 月, pp. 77-121.

## 辞典など

- 『新潮世界文学辞典』, 「ゾーシチェンコ」他 8 項目担当執筆, 新潮社, 1990 年 4 月.
- 『世界文学大事典』第 1-6 巻, 「ゾーシチェンコ」他 12 項目担当執筆, 集英社, 1997 年 1 月-1998 年 1 月.
- 『岩波キリスト教辞典』, 大貫隆, 名取四郎, 宮本久雄, 百瀬文晃編, 岩波書店, 2002 年 6 月, 42 項目: 「ロシアのキリスト教 (文学)」, 「『罪と罰』」, 「『ドストエフスキーの世界観』」, 「モスクワ」, 「ロシアの民話」, 「教会スラブ語」, 「ゴーリキー」, 「生神女」, 「ソボルノスチ」, 「大修道院 (ロシア)」, 「チューホフ」, 「トルストイ」, 「ニコライ」, 「プーシキン」, 「フォードロフ」, 「『無名の巡礼者の物語』」, 「レールモントフ」, 「ユロージヴィ」, 「黒僧と白僧」, 「サンクト・ペテルブルグ」, 「ストグラフ会議」, 「スラヴ派と西欧派」, 「セラフィーム (サーロフの)」, 「ソル

- ジェニーツイン」, 「ニコンの改革」, 「ピョートル大帝」, 「フィロフェイ」, 「ベルジャーエフ」, 「ボリスとグレープ」, 「メシア (ロシア)」, 「妖精 (ロシア)」, 「ルブリョーフ」, 「ローザノフ」, 「アクサーコフ兄弟」, 「ウラジーミル一世」, 「タタールのくびき」, 「鞭身派」, 「マースレニツァ」, 「ラスプーチン」, 「ラフマニノフ」, 「ロシア語慣用表現」を担当執筆.
- 『ロシアを知る辞典』, 川端香男里ほか監修, 平凡社, 2004年1月, 「グロースマン」, 「エロフェーエフ」, 「ラスプーチン」を担当執筆.
  - 『ロシア文化事典』, 沼野充義, 望月哲男, 池田嘉郎編, 丸善出版, 2019年10月, 886頁, 「農村と文学」を担当執筆, pp. 376-377.

## 書評

- 「トリーフォノフ『彼女の人生』」, 『波』, 新潮社, 1990年9月, p. 62.
- 「工藤庸子『小説というオブリガート』」, 『教養学部報』第406号, 東京大学教養学部, 1996年11月6日.
- 「ペローフ『村の生きものたち』」, 『図書新聞』, 第2355号, 1997年8月30日.
- 「Эдуард Власов, Бессмертная поэма Венедикта Ерофеева « Москва-Петушки »: Спутник писателя」, 『ロシア語ロシア文学研究』第31号, 日本ロシア文学会, 1999年10月, pp. 168-170.
- 「カルパナ・サーヘニー『ロシアのオリエンタリズム』」, 『外交フォーラム』, No. 143, 都市出版株式会社, 2000年7月, p. 96.
- 「小森陽一『小森陽一、ニホン語に出会う』」, 『外交フォーラム』No. 143, 都市出版株式会社, 2000年7月, p. 97.
- 「佐藤正則『ボリシェヴィズムと〈新しい人間〉』」, 『外交フォーラム』No. 143, 都市出版株式会社, 2000年7月, p. 97.
- 「ニコライ『宣教師ニコライの日記抄』」, 『外交フォーラム』No. 146, 都市出版株式会社, 2000年10月, p. 96.
- 「プリーモ・レーヴィ『溺れるものと救われるもの』」, 『外交フォーラム』, No. 146, 都市出版株式会社, 2000年10月, p. 97.
- 「廣岡正久『ロシア・ナショナリズムの政治文化』」, 『外交フォーラム』No. 146, 都市出版株式会社, 2000年10月, p. 97.
- 「滝田佳子『アメリカン・ライフへのまなざし』」, 『教養学部報』第441号, 2000年10月11日.
- 「リービ英雄『最後の国境への旅』」, 『外交フォーラム』No. 150, 都市出版株式会社, 2001年1月, p. 96.
- 「鈴木徹『バルト三国史』」, 『外交フォーラム』No. 150, 都市出版株式会社, 2001年1月, p. 97.
- 「桑野隆『ボリス・ゴドゥノフ』」, 『外交フォーラム』No. 150, 都市出版株式会社, 2001年1月, p. 97.
- 「アレクサンドル・ソルジェニーツイン『廃墟のなかのロシア』」, 『外交フォーラム』No. 153,

都市出版株式会社, 2001年4月, p. 96.

- 「セルゲイ・ドヴラートフ『かばん』, 『外交フォーラム』No. 153, 都市出版株式会社, 2001年4月, p. 97.
- 「村上春樹, 柴田元幸『翻訳夜話』, 『外交フォーラム』No. 153, 都市出版株式会社, 2001年4月, p. 97.
- 「エドワード・サイード『遠い場所の記憶』, 『外交フォーラム』No. 156, 都市出版株式会社, 2001年7月, p. 96.
- 「米谷ふみ子『なんや、これ?』, 『外交フォーラム』No. 156, 都市出版株式会社, 2001年7月, p. 97.
- 「井上洋治『法然、イエスの面影をしのばせる人』, 『外交フォーラム』No. 156, 都市出版株式会社, 2001年7月, p. 97.
- 「アンドリュウ・リンゼイ『神は何のために動物を造ったのか』, 『外交フォーラム』No. 159, 都市出版株式会社, 2001年10月, p. 96.
- 「米原万里『嘘つきアーニャの真っ赤な真実』, 『外交フォーラム』No. 159, 都市出版株式会社, 2001年10月, p. 97.
- 「H. カレル＝ダンコース『甦るニコライ二世』, 『外交フォーラム』No. 159, 都市出版株式会社, 2001年10月, p. 97.
- 「ナタリー・ゼーモン・デーヴィス『境界を生きた女たち』, 『外交フォーラム』No. 162, 都市出版株式会社, 2002年1月, p. 92.
- 「本村凌二『馬の世界史』, 『外交フォーラム』No. 162, 都市出版株式会社, 2002年1月, p. 93.
- 「中村喜和『ロシアの風』, 『外交フォーラム』No. 162, 都市出版株式会社, 2002年1月, p. 93.
- 「加藤幸子『長江』, 『外交フォーラム』No. 165, 都市出版株式会社, 2002年4月, p. 98.
- 「ノーム・チョムスキー『9. 11』, 『外交フォーラム』No. 165, 都市出版株式会社, 2002年4月, p. 99.
- 「萩野弘巳『地霊論』, 『外交フォーラム』No. 165, 都市出版株式会社, 2002年4月, p. 99.
- 「ユートピアの『終わり』と始まり」-沼野充義『ユートピア文学論』, 『新潮』, 新潮社, 2003年6月, pp. 274-275.
- 「ノダル・ドゥンバゼ『僕とおばあさんとイリコとイラリオン』, 『国際人流』, 2004年11月, pp. 48-49.

#### 座談会, インタビューなど

- ワレンチン・ラスプーチン, 原卓也と共に「ソビエト文学は変わるか?」, 『世界』, 岩波書店, 1986年11月, pp. 322-336.
- 佐道明弘, 中本義彦と共に「こんな本を読んできました」, 『外交フォーラム』No. 140, 都市出版株式会社, 2000年4月, pp. 94-97.

- ・ シンポジウム記録, 浦雅春, 望月哲男, 沼野恭子と共に「ヴィヴァ! ロシア文学、日本人を惹きつける秘密」, 『光文社古典新訳文庫』, 2008年4月, pp. 42-63.
- ・ インタビュー「あとがきのあとがき ドストエフスキーの中編・短編から巨大な作品のテーマを覗いてみる」, <http://www.kotensinyaku.jp/archives/2015/05/006500.html>, 2015年5月19日.

#### 学会, シンポジウムの発表など

- ・ 日本ロシア文学会第34回研究発表会, 発表「ゾーシチェンコー『日の出前』への道—自己を求めて」日本ロシア文学会, 上智大学, 1984年10月.
- ・ ロシア文学会第36回研究発表会, 発表「ワレンチン・ラスプーチンの精神的世界——« Последний срок »を中心に」日本ロシア文学会, 東京大学, 1986年10月.
- ・ 東京大学国際シンポジウム「ロシアはどこへ行く?—歴史・文化・社会—」, 司会, 東京大学ロシア東欧研究連絡委員会, 東京大学, 1996年9月.
- ・ 日本ロシア文学会第48回研究発表会ワークショップ, 基調報告「現代ロシア文学・翻訳の実践と文学研究」, 日本ロシア文学会, 東京大学, 1998年10月.
- ・ 第6回地域文化研究シンポジウム「異文化を旅する人々——ヨーロッパとイスラームのあいだで——」, 発表「ジャン(魂)を求めて——プラトーフの小説から」, 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻, イスラーム地域研究大班共催, 東京大学, 1998年11月.
- ・ 第7回地域文化研究シンポジウム「地域と地域文化を考える——東ヨーロッパの視点から」, 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻主催, 東京大学, 1999年11月, コメント.
- ・ 第3回東方キリスト教学会, 研究発表「ゾシマ長老のキリスト教」, アートランドホテル蓼科, 2003年9月.
- ・ ロシア・東欧学会第34回大会, 研究発表「シンフォニック・リーチノスチーユーラシア主義に見られる全一的理想社会の探求」, 西南学院大学, 2005年10月.
- ・ シンポジウム, 「ヴィヴァ! カラマーゾフ——ロシア文学の古典新訳を考える」, パネリスト, 東京大学文学部, 2007年7月.
- ・ ロシア思想史研究会例会, 報告「ロシア文化に見られる東方キリスト教の諸相——ゾシマ長老からユーラシア主義まで」, 早稲田大学文学部, 2007年12月.
- ・ 第16回地域文化研究シンポジウム「世俗化する宗教」, 発表「『教会』をめざす国家——ユーラシア主義のユートピア」, 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻, 科学研究費補助金(基盤研究A)アブラハムの伝統の臨界: 三大一神教の哲学, 神学, 政治論とその外部の地域文化研究共催, 東京大学駒場キャンパス18号館ホール, 2008年11月1日.
- ・ シンポジウム「井上神父とドストエフスキー——東方キリスト教を中心に」, 招待講演「ドストエフスキーのキリスト教と井上洋治神父」(基調トーク), パネリスト風編集室, 東京四谷・幼きイエス会, 2018年3月4日.
- ・ 『『反米』が腐食する時代——反米・嫌米・離米——統一と分裂」, 招待講演「ロシアにおける反

米」, 日本比較文學会関東支部 5 月例会, 二松学舎大学, 2019 年 5 月 18 日.

- 第 28 回地域文化研究主催シンポジウム「ぐうたら, 酔いどれ, ならず者——文学におけるアンチ・ヒーローの系譜」, 報告「もう一つの生き方——稀代の怠け者オブローモフと過激な酔いどれヴェーニャの生涯」, 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻主催, Webinar によるオンライン開催, 2020 年 10 月 31 日.

#### その他の講演など

- 講演「ひと味違うドストエフスキー短編小説の魅力」, 紀伊国屋書店 Kinopyy & 光文社古典新訳文庫 Readers Club 読書会, 紀伊国屋書店新宿本店 8 階イベントスペース, 2015 年 5 月 22 日.
- 対談「作家の顔、父の顔——安岡章太郎の素顔」(黒井千次と共に), 神奈川県立文学館, 2016 年 11 月 5 日.
- 講演「父の思い出」, 高知県立文学館, 2019 年 2 月 10 日.

#### その他の活動

- 放送大学「ロシア語 I」講師, 1989 年 4 月より 9 月まで.
- 「NHK ラジオロシア語講座・入門篇」講師, 1994 年 4 月より 9 月まで.
- 放送大学「ロシア語入門 I」「ロシア語入門 II」主任講師, 2005 年 4 月より 9 月まで (4 年間放送).
- 「NHK ラジオロシア語講座・入門篇」講師, 2005 年 4 月より 9 月まで.
- 「NHK ラジオまいにちロシア語・応用編」講師, 2017 年 10 月より 2018 年 3 月まで.